8 この胸の痛みを

私と由希と朝実は、仲よし三人組だ。

ある朝、私が教室に入ると、由希と朝実が楽しそうに話をしていた。しかし、私に気がつくと、二人は話すのをやめてしまった。どうしたのかなと思ったが、そのときは、あまり気に留めなかった。

けれど、その日の昼休み、私が朝実に話しかけると、

「ちょっと用事があるから、また後でね。」

と言われた。そんなことが何度か続き、私は、朝実にさけられているように感じ始めた。私は



相手を「許せない。」と思ってしまったことって、あるかな。



11 広い心で理解し合う

おんせい▶

気になって、由希に相談してみた。すると、由希は、

「言いにくいんだけど――。朝実、あなたと遊びたくないんだって。理由は、私にも分からないけど。朝実って、勝手なところがあるよね。ときどき私、腹が立つんだ。」

と言った。確かに私も由希も、活発な朝実の言いなりになっていたようなところがあったので、由希の言うことも分かる気がした。

それから、私と朝実は話すことも少なくなったが、朝実と由希は、これまでと同じように仲よく遊んでいた。私は、一人で本を読んだり、他の友達と遊んだりして過ごすようになった。

一週間がたった。さびしい気持ちでいたとき、となりの席の広二さんが、

「最近、いつもの三人でいっしょにいないね。どうしたの。」

ときいてきた。私は思わず、

「実は、二人からさけられているような気がして、近づきにくいんだ。」

と言って、ため息をついた。すると、広二さんは、

「気になっているなら、きいてみれば？　自分の思いこみかもしれないし。ちゃんときいたほうがいいよ。」

と言ってくれた。

その言葉に後おしされて、私は、思い切って朝実に声をかけてみた。



「朝実。私、あなたに何かしたのならあやまるよ。ごめんね。これまでみたいに仲よくしたいんだ。」

朝実は、

「えっ。私がきらわれているんだと思ってた。」

と、おどろいた様子だった。そして、

「由希から、あなたが私の悪口を言っていると聞いて、話しかけにくかったんだ。そうか。由希が、私たちを引きはなそうとしたんだね。許せない。ねえ、由希を無視しようよ。」

と言った。私は、由希のことは少し気になったが、「由希のせいなんだから、当然だ。」と思った。翌日から、私と朝実は、由希を無視するようになった。

それから何日かたった日の放課後、プリントを忘れたことに気づいて教室にもどると、一人さびしそうに窓の外を見ている由希がいた。その姿を見て、自分が独りぼっちだったときのつらかった思いがよ

みがえってきた。
私は、どんどん胸が痛くなってきた。
この胸の痛みを、どうすればいいのだろう。



編集委員会 作
◆丹地陽子 絵

考えよう・話し合おう

「広い心」とは、どんな心だろう。

●朝実から「由希を無視しようよ。」と言われたとき、「私」は、どんなことを考えたでしょう。

◉「私」の胸が痛むのは、どんな思いがあるからでしょう。

●この後、「私」が由希に話しかけるとしたら、二人は、どんな話をすると思いますか。演じてみましょう。



つなげよう

「広い心」って、どうして必要なんだろう。
「広い心」がないと、どうなってしまうかな。

